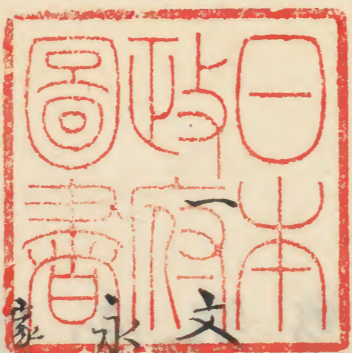




Faint vertical Japanese text on the left page, including a date: 天明四年...



對心より薩州家臣朝鮮漂為る者送來事

内 一 一 〇 五 八 號

文政三庚辰年二月十五日對心より薩州家士琉球

永良親島主當役安田甚友太同代官役日吉与一右邊の

家系 前田安之郎 五右邊の權右邊平助三助中右邊の

田右邊の次郎山助政右邊の孫頭松中勘右邊の水子猶野

仲助吉村甚之丞正右邊の仙四左邊郎長次郎寛之丞

長市三郎利助与多衛郡合廿四人送來漂為る

次牙琉球國之内仲永良親島主當役とて申渡り

代り役とての薩州より來り是と交代し去り

六月十四日豊後守手船十七揚帆島壽九上下二十五人
宗組永良船島帆以は雨同廿一日より風急なり
廿二日廿三日烈風を東風を破て西より流也同廿四
日より流也濁水小七月取日又成亥之風を變り
風浪に似て流水濁り日廿三日船何處にも舟一は山下へ急
碇を入り船を来り湊内に入り其後朝鮮國より舟を
知り然るに舟を急風を破損壞せしは依り日廿四
日積りとも燒捨朝鮮船を漕送りて八月晦日同
多と浦より舟を去船せしは對か役人少張直日本船
宗移り九月晦日釜山浦を屬し日永年嚴浦より舟を

船繫り當辰正月廿對か渡海し船中宗組同十人出帆
日對か依り浦に是為二月十日對か府内より船
今日當津に是岸に右朝鮮船あり在當役川上彦十郎
病死し舟を對かより左船に役人舟より口を草梁
東向に埋葬せしは外に疑及儀多しとありて月廿八日
薩州軍役石系猪島より引渡り

己五當り當船より薩州家臣送來事

一 文政四年己巳年十二月日五午年正月己五當 劉培同六當
周藩亭船より松平豊後守家臣室向共三改 只今承 竹下

在右邊の口在 幸助 丹世の在る家来 前因二多番取次守助 水子
七人外に琉球より便乞し同因沖永良部島にその平安山
静林志米澤幸里都合十六人之内琉球人幸里ハ唐國乍浦
より鑑死残十五人送来り渡りし以才又今年以前當年
琉球國に中沖永良部島に在るより其渡り 去年
秋代に役しその薩州より其才是と交代し其薩州川内
白和所慶田次守助の船八福帆三方名積居宮丸、上下三人
取次来る八人外に右取次し代官役丹世の在る家来三人
并同取しその四人都合十人其能右同取諸島にその
ともより麻比取船に送来り或は高貴あり其船積三百

八十樽牛及十八俵葦三百五十束其外もとり糧米塩味噌等
積居り八月八日同取し内伊延より小湊取出帆取其風順
悪多同因取し其沙鷺り同廿三日午刻辰巳ノ風より同因
大取し内津代より小湊より 取を出せし不日廿六日陰刻
より不世の風より取せしより又と大取し其高き人し
せし内次才は風波烈り其廿八日夜終に檣を伐捨
取次水子以替り切を神佛へ祈願し 取次取捨し
取次が立願海中に沈み積居を投し 抛才命働り
とも風浪強し約五十里中沖より吹出よりより依り其水
高く樹を柱の代りに建帆を掛置る方損せし亦繩を以

相傳地方を志し種々困窮すといふ力及び此風を
併せりしと漢の不出九月の酉刻以申ノ方、當りて
海流あり下るり見出右ハ唐國なるも其式若唐
國より流球人薩州に通過しり馬津より一軍及し
りつて米澤幸里八月代を利せ日本人と改め其原を
以右傳の幸里を里右傳とい名傳平安山靜林志ハ其を鑑
直させ醫師し辨し移平安山を平安傳の靜林志を以右傳の
名傳並地より進歩人と其内聖なる潮し也其海原
四の尋し見く地方遠く流せ舟は浙江省温州府より
幸艘し十船ありしと三日十間程もて其川に引込三里程

漕行温州府に味下永嘉縣より小舟を以て右小舟ハ
宗務のべき名仕形し其の傍を幸移上陸し二階造宿を
辨し其の以並接舟の色ハ其末りありり形以て數日
雨に日往送り此當に二月廿三日午浦一也日本名其字あり
出右長を運送り向曰三月廿日夜幸里初に其船死
りし其船十人日六月十七日唐船二艘、其組午浦出帆し
風波悪交日七月十七日廿日廿日唐船二艘、其組午浦出帆し
再出帆劉培原船日十月長崎湊入津周藹亭、其を
薩州片浦湊、其共雨より引船を以て翌午正月廿六日
當漢名其形依し例に通し吟味、其日年三月十八日

薩分軍役徳居助右海の内役所 之右海方之字引後
帰國せしむる且又是例に通立唐荷之末七指儀古私
之旨三十儀之六当服私之并古瘦財割合七人二十儀
之六抱唐人六人七日二十儀之在唐儀之

對分より朝鮮漂多きもの送事書

一 文政五年八月廿八日對分より薩分寄城船水引私
間嶋候より即証住徳九廿三指帆沖私儀依之郎水之十七
便乞十八人都合三十六人送事之儀之同廿八日送事漂急
之次身吟味を之々々々不豊候了用向之去已四月二日

困許出帆琉球屬國之内大砂へ渡海用物移入日八月八日
口下帆引之儀日九日候。大小東風之浪多きなり中七指
より棹損せしより是非之櫓を切捨て日洋中、漂少内
日十四日大風之儀私具損壞等をも流失し是殆ど心
しむ積荷を投し日十五日漸く風波静り雲印し方を
志し漂ひし夕陽より人々高山を見出は是を目為し
流れ渡ひし日廿八日何國とも不知入江に漂到し本船
頗る高し初度を破り水形となり山形多被漕来り海人
悉く助載全羅道海州牧旌茂縣外島浦より山下上陸
候し朝鮮國より小事を知り然る亦本船損壞せし

依て積荷も煙捨者正月廿日朝鮮船を漕送下北
日國多在浦へ多初より 對所船を牛岩浦へ送替へ
滞五くく六月廿七日口雨より多船口悔。對所依次
浦を渡り八月八日有内口十日口所出船昨日書渡多岸
せし方りし且水より内多船の權を渡の作右場何印便乞
之内船右場多右場の内不右場多の内朝鮮國氣對所中
して船死せし外に疑容候とてしりては薩州年役
徳承如右場の内引渡し

未年當留船より薩州方船より送來事

一文政六癸未年 幸當 劉景伯 船四當 譚竹庵 船より
薩州船のここの送來り此輩去年四月琉球國より大碓
より薩州より一年貢品砂糖積積同國庶民仲登の
船三十二端帆六百二十石積天陽丸沖初幸以郎水之丸
二十四人宗組日月十二日薩州山川溪少船廿六日大碓是舟
五砂糖五十石并筵三子枚程積入且口雨日滞五く薩州者
便乞三人并大碓し琉球人實父とり小もの口人伴段次郎
甥之嘉助舟人カカ喉乞口船系也居し亦係順風と成る
船より人喉を其後宗組却在三十人日八月九日大碓
少帆九百里程し大洋を系こし不日十三日曉より小碓

口下登走有境内一葬り残るものも當六月十日日本
渡海し船二艘に乘組公帆口十九日迄竹庵の船にも系
付いし右類船見失ひ然るに劉景筠形系録し實又曰
廿四日夜走り船々海中に沈没を見一行清知日
残り十三人護送して七月十四日長崎湊入津譚竹庵
船の風順ありて安房の十月十日再び乍浦出航日十二月
三日當津島孝信依て例を通川吟呼号してを當り運
渡る十三人の九月廿三日薩州軍役石原安房の引渡り
有り四當り護送し十五人の翌申年二月吟呼。同家士
若松次右衛門の引渡り於て又在唐新と并 船を財割必

抱唐人として芝罘に下りて現承に褒賜し

對あり朝鮮漂着の者送來事

一 文政七甲申年三月十日對あり朝鮮困漂着薩州
家士琉球屋崎の鬼界嶋に昔役處是等在唐の家來
葦田早治中島長之清船長松平賢平水主十六人便乞
五人合二十五人立花大進が監形内籠塔國山川那崎塔
切渡船再既に多清水主十人都合三十五人送來依り同
十日薩州海島の吟呼をきくもの不鬼界海島
當り漏豊塔寺多和沖以凡十五端帆に用が在移入

去^レ未^レ月十八日口碇出帆翌十九日日國屬碇^レ内
大崎^一伊勢^一月廿日口碇出帆而日廿日之夜強風
逐^レ口碇非^レ有^レ播^レ在^レ代^レ移^レ碇^レを^レ投^レ其^レ未^レ碇^レ逆^レ風^レ
洋中^一漂^レひ^レて^レ日七月^一何^レ國^一も^レ無^レ一^レ地^一方^一漂^レ到^レ
以^レ地^一朝鮮^一國^一全^レ羅^一道^一昌^レ陽^一縣^一豐^レ安^一浦^一と^レ下^レり^レ
早^レ東^レ彼^レ地^一官^レ人^一未^レて^レ懇^レに^レ接^レ舟^一を^レ加^レ且^レ播^レ兼^レ舟^一具^一
施^レ与^レ逐^レ口八月三日船^一及^レ駛^レて^レ引^レ返^レて^レ日廿三日
多^レ在^レ浦^一之^一船^一又^レ對^レ向^レ役^レ人^一護^レ送^レて^レ日九月十八日
釜^一山^一浦^一を^レ曆^レて^レ牛^一岩^一浦^一之^一日廿九日口碇發^レ船^一口碇
依^レ次^レ爲^レ之^一岸^一改^レ方^一之^一當^レ口月十日府^一内^一入^レ船^一口二月

廿九日日不^レ出帆昨日當^レ淡^レ入^レ洋^一セ^レ去^レ舟^一又^レ筑^レ後^一者
十一人^一去^レ未^レ二月十日瑞^レ帆^一辨^レ糸^一丸^一多^レ組^一立^レ所^一出^レ帆
以^レ後^一大^レ坂^一或^レ羽^一酒^一田^一淡^レ入^レ船^一運^レ賃^一積^レて^レ米
積^レ入^レ再^レび^レ大^レ坂^一志^レ日六月十日致^レ多^レ組^一下^レ洋^一中
二^レ初^レ次^レ才^一風^一浪^一烈^レて^レ危^レ殆^レ及^レび^レ數^レ日^一漂^レ子
内^一日七月十日^一山^一を^レ見^レ揚^レ舟^一多^レ組^一日^一力^一を^レ積^レ
積^レ力^一を^レ多^レ日^一風^一波^一を^レ船^一亦^レ損^レ壞^レ
湖^一也^一入^レ翌^レ十七日^一終^レ水^一船^一を^レ係^レ本^一形^一多^レ組
端^一形^一多^レ移^レ浮^レひ^レて^レ漢^一船^一一^レ艘^一多^レ通^レ舟^一招^レ考^レ
下^レ日本^一容^一貌^一日^一吳^一言語^一通^レり^レ然^レ也^一漂^レ船

多しを知り地方に潜入吳也初に朝鮮國とす
事を耳けり此地景尚道景安其浦とす
日廿二日引船を以て漕送牛嚴浦へ去り刻
對面役人詰在り滞立し以多し日十二月廿九日
日亦和對面依次京浦を渡り當二月廿五日府内
より出帆昨日當津へ三船せし方中し經家儀多し
用之 薩摩しその日亦之役税不次多し 即日引渡
筑後之軍八日三月廿一日柳川軍役仁科左衛門
より引渡

一 日年五月廿八日對面より 朝鮮 慶尙道 蔚山 府内

頭内室嶋五當役山口善八岩元八郎及兼薩州千船
天邦丸船隊平次郎水支知人其外混成種子島居
船既樋口孝左衛門 船然如丸船既次々清外之水支
八人便乞人部令十五人送來り依し日海に誘は漂
るに於て吹波を以てし不立當役交代古井去り
未七月二日日崎波出帆下風波烈し 殆ど危急なり
是非より積高を投し櫓伐捨取り洋中へ漂ひ日八月
三日朝鮮國公清道安身に 漂到し 多船破壊同し
燒捨日九月十日彼國より 釜山 釜山 釜山 釜山
護送す也 日十一月十三日對面役人詰在り

當四月十二日於朝鮮國出帆日廿三日對馬島為日
五月廿七日回國島永翌廿八日當湊島為岸也
系組之内水吏方人病死依て家為系朝鮮國に埋
葬せしむ又隅所に十人の材木を賣ししむ
唐分西目表、乃渡海去五月廿五日東風方種子碇
より出帆風急忽數日二月三日肥前平戸其後長州
赤間肥前松碇等し下り海急日月廿八日松碇より
再び碇出松下翌廿九日己刻より小東風大に起り
危殆に及び櫓伐捨其夜終に楫碇おれ日て表に
方碇を提風、他に救日流也海ひし日七月廿三日

朝鮮國西少に遠、故漂急示日廿七日再び悪風吹て
本碇破船、乃不然示朝鮮人未て救由を乞ふ系船
燒捨朝鮮亦し日十月十三日對馬島張所送り、扁當
四月廿七日西に滞五日十二日對馬役人渡送し依り系
舟内より入船日五月廿七日舟内少船翌廿八日當湊へ
是船也、旨了之外、疑有候事、しむる、唐分軍役
少忠新船、一日引渡り

一 文政七年甲申年十一月十九日對馬より朝鮮國唐分唐分
唐分碇下所居船改裝裝船廿三日瑞帆金山九沖舟改
種子碇新造系水吏十八人便乞二人却念廿八日送り表

依し曰廿日午後漂着し以才吟呼を乞ふ不流疎困
に用船して去れ末十月廿九日城下少帆日十月十九日
琉球に去彼地用向終て便乞三人宗組取合廿五人
舟船當二月十日出船し一日十三日東風とて薩分
志し帆を揚し次才大風雨あり是非少帆を
下り風は任せ渡り日十八日漸く風あり東より方
島を目當り走りし又東風烈し船は逆浪とて
危殆に及ひしに移るを投し漂し一日廿日
峻山を見し山下に舟船あり是れ此州小船
救艘漕来り即ち朝鮮國ありを知らし是れ對面

役人護送して廿日金山浦へ漕入持育て遂に十月
八日國出舟日對面依頭系り是れ府中あり
陽子て當月六日不出船昨十九日船當津く是岸は且
多知の内四人朝鮮國に對面して病死せし者外に
疑容係りし一人て是れ別薩外軍役十人新船に
引渡す

西六番八番船より多め者送來事

一 文政九丙戌年 西六番沈綺泉日八番 劉景筠楊啓堂
船より奥州南形順とて七人送來り此車七年

以前辰年奥州同伊船或浦田野村黒沢至六の物
船十二端帆六百五十石積神社丸の沖舟頭口國破鶴井
平の並水主を十二人高組鯛粕大豆奥油鯉節并
碩主江戸尾多船の角お其外品を積入日年十月
廿五日同國大槌浦の船は有之志の房御沖甲乙系
掛く日十二月十日夜風成亥より多し雨雪強風波
次第に烈しく遠く地方を見失ひ危殆に及ぶに
是非なく櫓を代換積高を扱し流連海より舟
頭了全昆羅神の立願し神籠を上りて海甲
流出の神籠より高組一日力を落し積高船中飲水

切也炊爨、術を漸く天水を文留法し又揖換
壞せしうの錫を引くを際し不聖己正月六七日頃覺
又風替り逆浪とぬえありあり風浪は怪し漂ひし
日月廿一日曉何國とも無つ所地方を見出一日力を
得高多んと勢力をそとくし風波高ししし
高多し能く此用し本船の碇を入口碇舟へ高移り
地方近く漕多んとせし浪も也水船し有然れども
高組追て陸に遊より沖舟以平の並水主を死
此雨を溺死すと見終り浮る死骸もも流也
高ら高葬人と其日此雨に滞りし死骸も不見也

示し令せ右船より連載せし人事を仕形して頼む所の
ものも法とも頼む所ハ船人許諾して其後八人とも
船より去せ日月三日以内船代去らざれば其夜船内日
十日一ツ湊へて岸上陸し其人家瓦葺二階造り家
方より床を張板敷として四を辨し下上連行 只是るより
四より辨すれども初通せし漂人字日本人し三字ヲ書
見せしめしよ及んで怪しむと見へたり後米穀取
鶏を口しよ一唐人とも從來しよ持育す以時即ち
暹羅國よりしよを去りし日限限四十唐仕立し亦給
單おこしを人列しよ一其外扶ゆし後之 暹羅人然る亦

之ハ唐國福建省福安府福清縣ハ船漂せし唐國
送りし形しよ仕形しよ下上 同し去る六月三日八人とも
安船ハ帆せしよ水之伊勢松船中しよ 病死埋葬スル可
能しよしよ 難見しよしよ海中に投しし七月十八日廣東省
廣安府香山縣澳門ハ船巡檢司役下上 連行持育し
ハ日月廿九日役人附添口下上 少多 船代ハ
步行しよ下上 轉しれ 福建省漳州府龍溪縣を
歴凡六年の日をもち十月十日浙江省乍浦ハ船日本高
王氏十二家古き王守安揚嗣亭し出居ハ多し其類
其ふしよしよ日し持育し 暹羅人上月廿四日日本通るハ船

二艘。宗組沈綺泉、十二月十三日隅川を久崎に漂
去し、當三月九日當地島岸、劉景筠楊啓堂と船、
洋中よりありて難風を逃ひ、宗組船は日月部を船下
去り、其日十九日、強風を凌ぎ、引舟、此日三月
九日、同所より、護送の不出、四月廿四日肥前國平戸田助浦
元崎より、難風の日六月廿日、日本船を引送、此
日七日長崎へ是船、依り右漂民も、此吟味中例、
如く、窄内にて、是等水子、未だ病死残り、其人吟味
早て八月十八日廿日、南近信濃守家士、令矢又、此郎
工友、長崎の引渡し、帰國せしめ、是又互唐首を主

并護送船之財、副舟抱唐人より、先規に通現米
以奪賜し

戊七番船より落かす者送未事

一 文政九丙戌年 戊七番楊西亭船より落かすもの十八
送來し、以軍同年三月、日國山川を、馬の船十七張、帆四百
石、積材久丸を、沖船、麻、足、碇、車、右、落、の、借、諸、水、主、に、
十、人、宗、組、米、大豆、酒、多、多、粉、紙、類、船、既、有、お、積、入、琉、球、
周那霸、積紙、黒砂糖、木綿、交易、の、め、日月十九日、
山川、渡、舟、帆、口、四月、三日、琉球、入、碇、色、く、宗、組、

東風烈々吹募屢風並度セリ。因テ意なきに富國
五高を志し終に帆を張陸行し。次舟に逆浪とるつて
危殆に及び移舟を授し。一日抛命金昆羅神祈禱を
籠取日流氷濤の口昔々んと覺之。故海に流氷著碇と入
以而唐國浙省寧波府定海縣に流氷あり。渾舟
解し小艇を過す。一力を得舟を吞水を乞
扶舟を得其末右艇を組し之の系物を取し教へし。日
何れ南方を志し系初日五月十日一小舟に漂出せし。不
云六日を度し大小の艇を繋り憐れき艘に小艇滞船し
系物を奪ひ俱に頽船し。而して繫日六月十五日又

浅海に系入時船底損壞し潮也入り皆移り固系
し。以て内小艇救艘漕米救ひせり。本船を控日薄
暮に少く赤身府平湖縣下浦へ。是日卒志十二家荷之
揚嗣亭仕入者。是日し移舟し。且知縣其吏官等し
患を遂に逗留中水主十右邊の病死。因て口地に郊外
山上に葬。残十人口年十月十九日通高揚西亭に船を組
口十二月朔日午津少帆風順烈々天草那高津打
漂。是日月廿四日常濤。是岸より依て訪り。是親を如く
吟味をせし。此年丁丑亥年四月廿六日落命軍役。又
四郎引渡帰國せし。於又上唐高を護送し船に

財副々抱唐人ともく、先例に通ず、現承に唐賜し

戊辰番船より越前國能登國に名送來事

一 文政十丁亥年 戊辰番沈錦泉船より 越前順口國丹生郡
海浦にの三人口國芝与一右邊の代官下口郡道口浦にの
五人が貨順能が羽依那大念寺新村にの老人張念九人
送來此輩越前海浦蓬萊丸在右邊の船七百石積
二十二碇帆室力丸に浦岩岩島の沖船にの雇水元九人
舟組松前より昆布買積ととて去る戊辰三月十五日空船
より海浦出船日月廿三日松前昆布五百石を買入

船積一日八月廿八日松前出帆浪花を志しをりしに
九月八日何國に沖し無風大洋に東風強く吹出海上
荒立是非なく積高を投し櫓を伐捨金毘羅神に祈願し
流し漂ふ所日月廿九日曉潮方一流し掛り既危殆に及んで
船を卸し一日系移漂り昔唐國江南省松江府
上海縣に渡船を被り通敵ひ事なり此夜に至り人家に送
止るに十月朔日所出立松江府内川浦廳に連行救日
所に官下川船を能送し此移舟を詔日十月十二日
浙江省乍浦总上陸し汪氏若る王字安仕の店に去
置日扶也迄に且官下より施方あり日月廿九日

沈鍔泉の船、舟組此時に至り薩の者唐國漂到し、
通事唐人説話すといふも互に面會を不至同二月朔日
通事船、却合五艘も一日午浦、帆不進、頭船見
失ひ鍔泉の船も風順悪く、薩の舟多し漂去、尚亥二月
三日當津、船久依、例に通事味多、口年九月八日松平
越前守家士、海田大市、渡の松平加賀守家士、松井、並年芝
上一右馬、代官所丹生、那道、浦、之、長百、如、等、之、又、
引渡、帰、困、セ、リ、め、れ、松、又、之、唐、荷、之、護、送、船、之、財、割
各、抱、唐、人、才、下、ハ、先、規、之、通、規、存、之、獲、賜、
...

子四番五番船より陸奥伊豫の者送來事

一 文政十戊子年十二月四番金谷江五番 創景編 朱春谷 船より唐國
漂流市、信濃守願内、又、宮下、磯、鶴、井、之、の、五、人、日
金、彦、村、之、の、二、人、南、部、之、渡、の、尉、以、内、日、國、三、戸、張、湊、井、
之、の、三、人、松、平、隱、岐、之、胸、口、豫、州、致、智、那、岩、地、井、之、の、
之、人、於、金、十、一、人、送、來、漂、去、之、身、去、之、亥、年、六、月
廿六日、奥、が、八、戸、港、石、橋、徳、右、渡、の、船、八、百、五、十、石、積、廿、二、瑞
帆、融、勢、丸、之、右、渡、の、尉、存、物、積、入、口、下、出、帆、日、七、月、十、九、日
江戸、品、川、之、向、廿、九、日、帰、船、口、十、月、八、日、常、が、年、深、之、若

四所より江戸に引渡し是米四百石除我七口十二月二日出船翌曉
より雨雪風波大に起り追々危急なるに檣を伐重なる
投し髪を切神佛に冥護を祈る不始りしは風亦一々
おどろく同く帆折れ帆十二揚を懸け何國の洋にも不弁
空しく流連をり不翌子の月十日大船一艘系り下一回
力を増強舟より右船に移り糸組數十人多蘇木を載り
后は小唐田浙江省温州府に洋より福建より外國より
高船多るを知る日十七日海賊防に役船三艘繋り下り
翌日午後卒多末より漂人且隨子に荷物を留後し
後加口廿三日に官船友より書を係兵丁警固し良日

温州府永嘉縣巡檢司役所引渡りし後所
吟味を歴引経て日八月廿九日浙省乍浦に迄日本
通商船之王氏揚氏の書家と並移育此日十月廿二日
至り通商船二艘を系り分一兩出帆一艘は日十二月六日
薩州山川一艘は日七月天草郡崎津村漂忌日廿四日有雨
引立日廿六日常湊に船は依り吟味子に翌丑十月
五日松平隠政の家士大磯甲助は日七日南越信濃の家士
中村才作竹鼻若光は日南越信濃の家士中里友十郎
吟味子に不殘引渡り於又方氏高と方艘船と
其外にも先類に通現系錫し

丑四番七番船より伊豆國八丈島に漂着し者送來事

一文政十二己丑年十二月四番沈秋屏 孫澳村日十三庚寅年正月七番
周鶴亭船より暹羅國漂流日本人十二人送來此輩元
榊本多右郎當時田口五郎左衛門の次郎伊豆國八丈島大賀
谷村にその七人日三根抄にその三人合十人口崎中野口
金右衛門の船に百石積廿二張帆仁壽丸に八丈島若干積入
か二口崎に漂着難かその十八人惣船にその十八人及船
にその十六人紀おにその十四人都合十六人江戸榊本氏に
地役人よりて送來船名より一日多組去子年八月廿一日

八重根港出船日十日江戸湊炮台に志漂人送り届場取
相納滞船中大賀郷村にその一人病死し口崎にて報知
茶々預移系且立不極立村にその廿人大賀谷村にその
廿人都合十三人乗組日九月廿三日日所出船日十月十一日
八丈島港に系掛し候に風濤荒立沈没せしと事
屢なる追、船具傷折れ幸ひに風おし初るき濤又穏く
なりしに、大洋山見、日十九日帆折、帆を抜、縄を
引、漂ふ去、丑正月十日西南に山を見、翌十日地方に
近、舟、陸より、漠に人家無し、又人跡も不見、此地、別
暹羅國なり、遙に煙氣を認め、異人あり、頭ハ斬髮

月之笠を戴く男五人各血を流る。倉を提攜をさす。解
見ゆ女髪を頂、巻水牛を騎る。尋問す。初通を以て
大指を以て封長の有るを仕形は不通既を指し、
曉ると見ゆ右の所の附添好里往て一封、来ん毎必松栢
を以て葺し米を粥靡に煮おし食として爰に
止宿する事數日。二月十日日開し内、小名マニイランに
去唐國の志館に連北往て福建人に引渡す。日四月
十五日廣東僻地之名マカヲに唐人一家數百あり。日五月
七日廣東の志繁花の地あり。日八月十七日江西省廣信
府玉山縣より乘船浙江へ往来す。内河を厲て。日九月

廿四日乍浦へ去日本七の若もの引渡して、持身以て不運者
中三根抄しとのまゝ人腰痛、歩ゆべし、身醫を誥服某と
内十月廿七日還りし船二艘。乗組日廿九日一日出帆。日十二月
四日右病人遂に死に一艘。日六月五日島津の漂。日八月
順風に出帆。翌日當港。一艘。日九月九日落舟。片浦
漂。名當宮。正月五日引立。日十九日。名船。依て此吟味中
死骸の大音寺に假り、埋。且又生團等因口より命の乳と
日五月十五日八丈崎地役山下平次平井役人並代。十二人
引渡す。水死に人亦抄しあり。其親類。一女子渡る。其命
且唐人を以て先親の通現不賜す。

卯一当三当船より前濱政佐能登爾者送來事

一 天保二年卯年十二月一番周菟亭三者汪執耘初より外圃
漂流日本人十四名送來り漂着は才ハ去ル寅年松平
伊豫守江戸邸中扶村来積送る内備前國因山
廣瀬町多々分金十郎船千七百石積三十端帆神力丸、
米四百六十俵其外雜物積入口人妻来揖役宇治甚助
片山宗親津船はる海の水主十二人松平濱政守内濱政
因との一人松平勝左内備後國との一人松平加賀守
内能登爾との一人毛利甲斐守内長坂下守との

去人都合十九人乗組日年八月十二日岡山山川口出船日十九日
夜紀伊國壱見碕に乘來り亦俄に北東風大に起り海上荒立
翌晦日日夜とて遂に帆裂損おし西南の方流に漂ひ
風波又、不止危殆に及ひしに因て積荷を投ず力を盡し
いづも大洋に為方なく日九月十月中まゝに漂ひ飛
遊し十月六日に至り南方に山を見ゆ幸ひ小風となり稍を寄
岸より上るとい時、大波来り船は巨岩觸れお砕く甚助
等死に帶力之間も多し水もえ流し僅し多くし身を持
船板に存り漂遊し去り津船の水主も其時ものも
五人溺死し翌七日死骸を基に葬り残り十四人此夜野

宿日合人家を尋ねしは異群をの舟より来る破紙
の群を見て訊曰し故に有れども互に言語通せん空腸の由
仕形も熟の辛をよみ翌日舟をよみ一ツの津、三ツ山下
村落あり男女数人幸、女髪を意れ式に控籠り何れも
裸より腰に白木棉又赤筋二階し揮し如く幅
狭きものを纏つた男子の髪を薙き頂に糸群りを結
是又裸體あり漂人を引多々人家、止宿右家に柱木
削り以萱を以て葺き葛より戸を編み至て狭窄あり
土瓶を爐に如く置き土瓶に辛を煮食れ此亦波丹國
小舟よりサバタニといふ日十日出立日十五日サルトリを工

总数百人家あり里長と見しその事、懇に控籠り
宿する者人多し既中を被り緋木棉の筒袖、短襦
付股引を穿ち紐に括弧も、狭き身、法衣を
薄し長サを裁寸許り鞞に黒革を用ひ紐を右肩
より左股に掛ケ日一革に細糸を右、右、右の紐を
扱そ夜登固り其後里長し宅行し手度下りて
主人の曲録より其外妻女下役数人並會姓名を尋ね
多の墨を濡し横文字を記し酒散る酒を
其蒸るより製成り小礫中の辛味あり酒中都に塩
紙穀あり類甚し稀なり只長の家少許りを著し翌

卯年正月六日役人附添い此地より船に里長及び村中にも
も甚別しを傷み涙を流れ或は乾魚烟草を與ふ右船ハ
長廿七八間幅二間程あり舳櫓ハ形ちワ根あり根ハ板を
張り穴有て出方ハ櫓ニ年枕ハアニヘラヨク造了揖々
左右あり櫓ハ多ク櫓を用ふ舟行凡三百里程を行て
日月十九日夜呂宋國に港口ニ迄度豁し地よりして大小
の船が艘泊し翌廿日川内へ乗入る城郭見へ前面より
濠塹あり堂廳を尾を葺き白土を塗又あり櫓あり
右川に枕り大門ニヶ有あり各橋上は指炮あり舟車登國ス
此土より風男ハ斬髪より黒羅紗又ハ木綿より茶葉如く

或ハ黒塗し眉扇ハ形ニ製する帽子を被り筒袖ハ衣を
服し革沓を履き女ハ帽子用ひハ衣服ハ大概口一日
廿一日上陸唐國に高館へ行て唐人に引渡り國所を尋ね
し、因て我等日本國傳前しものを國主し用米を
積難風色ひ漂到し地より送送らるるを去る一日
館中ニ止宿し通事唐人ヨク々在抱し此所を呂宋酋長に
許りより快炮に隊率一千五百人を差し一日七百五十人
城門或ハ要所交代警衛すし土人ハ往來を見るに
役人を見しものハ車ヲ乗り古馬率し沛者あり
馬具ハ製都々本邦に異なり但興ハ本邦に製す

伴一曰三月廿日、以唐船四艘入津、交易す。四月三日、
右館前より呂宋船、乗組四百石、積載し、船にて、西へ塗
上、板を覆ひ、帆柱三本、帆二ツあり、碇を鎖を以て、
船艫に掛け、方し、大洋を、夜乘行、凡五百里程、
四月九日、マカラと、ソノ所へ、总船、死に地あり、當亦、役人し
方、引結、き、海、遠、長、を、ク崑崙、ゴ奴、ホ者、ハ、
右、ト、モ、メ、本、國、ハ、イ、キ、リ、ス、ノ、色、ヲ、モ、ゴ、ヲ、ト、ソ、ノ、地、ヲ、
海程、凡七百里、ト、シ、テ、男、女、ト、モ、備、作、ス、事、ト、シ、テ、其、以、漂
人、ノ、内、小、瘡、ヲ、焼、ル、所、ニ、同、リ、書、付、を、役、人、ニ、書、以、て、お、し、て、解、シ
煎菜油、ヲ、書、付、を、書、付、之、を、用、ひ、て、次、才、ニ、平、倉、の、日、十、二、日

役人より、高字に書付、救通を渡し、シ、テ、讀、マ、シ、由、リ
仕形、ハ、其、後、役、所、ニ、行、ハ、シ、テ、呂、宋、長、吏、古、人、唐、人、ト、モ、人
各衣服、及、簪、ナ、リ、唐、人、ト、シ、テ、大、形、ノ、浪、淺、ト、モ、人、ト、シ、テ、四、丈
ノ、を、与、ふ、日、月、六、日、以、前、ノ、吏、目、シ、方、へ、到、リ、書、付
を渡し、近、邊、に、散、行、を、許、し、テ、十、五、六、丁、行、て、山、に、林、兼、ニ
觀音、ノ、寺、あり、丸、き、石、門、を、モ、也、前、ノ、石、字、ノ、名、跡、
石、碑、あり、日、月、下、旬、片、山、栄、苑、廳、也、ト、シ、テ、呂、宋、人、唐
人、立、會、是、近、邊、に、步、渡、し、テ、書、付、を、以、て、尋、向、に、辨、別、
を、辨、別、し、か、き、テ、書、付、を、以、て、然、ら、し、歸、國、に、必、役、人、に
見、セ、テ、ソ、ノ、日、月、廿、九、日、日、亦、書、付、を、以、て、又、書、付

相渡凡都合四通あり、譯人を唐人譯名船二艘に乗組、
各百石積位あり、白木送あり、舳に白木柁吹貫の旗、
廣東公船と書し、又艦より張挑灯二つ立て、文字ハ口依
あり、即日出船日七月廿日、廣東省廣西府香山縣に省
上陸し、暫く休息し、又三日あり、通船し、川筋右側ハ
松山あり、或ハ人家田地を見、此迄南方土地ハ年中稻
實り、已ニ刈し、田あり、又植付し、苗有、口三言、廣東ト云
廣大ク港あり、翌日、一同上陸、洋行館に付、役人ハ
引繼右館内ニ城隍廟あり、又旁室あり、遠洋通商
し、この止る凡此中、空房ハ多、是日八月朔、每人凡米二

し、醫を請ひ、茶を求、服用、南海縣より木柁に
衣衾を恵む、日廿日、當地乗船、山間ニ急流、舟入、右ハ
深山、龍蛇群聚す、此ハ廣東省南雄府大庾
嶺、此山なり、日九月七日、廣東あり、凡八九十里程、
西ニ境ニ到り、翌八日上陸、肩輿ニ乗り、溪路多、山を
攀つ、則ち廣東江西境ニ到り、大庾嶺なり、山を
江西省南安府南康縣ニ到り、翌九日、再び船ニ乗、
龍挑灯を建、出船、廣信府考溪縣龍虎山を過、日廿日、
南昌府ニ到り、城あり、是日、又出船、日廿八日、
揚湖ニ入、凡十里四方、山ヲ見、凡日十月、合浙江省、
處州府常山縣ニ

志翌九日出之役人志組し船三浙江公船と記し旗あり
同月十七日杭州府钱塘縣より一月廿日浙江省嘉兴府
平湖縣乍浦より船せり江西省より江程凡百三十四里有し
廣東城中より都合三百餘里唐國里程より四千七百五十里
より早東上陸役人引渡人列を檢し名歳を記し後名
於又通事唐人未し事内より日本通商を揚嗣亭し
出店に伊の好有せり右樓上より藩地との星又海流し地より
送了事より入り代り滞り其後有し木抄蒲田系
綿入帽をより日十月廿日銭列し餐食より日廿三日
唐船の艘より分り南落亭船より宇治甚な号七人出能

翌廿四日各船日十月廿七日薩州山川渡る日九日出船同
十三日長崎总注執転船より水之等七人志組十一月
廿九日出帆日十二月十六日當港志岸に依し長を味
し尔外國滞り中郎教節渡り候多し正月翌辰七月
九日松平伊豫守家臣多田勝作松平與八郎の宇治甚助
片山栄利水主より十一月廿三日松平加賀守家臣今村
丑之助より至人口廿六日松平讃岐守家臣山田三九郎
一人日八月三日松平勝吉家臣吉田矣招り至人都会
十四人引渡り歸國せしめり且弱死五人を之の事
夫、親族、之縁方を命り松平又互唐を名り来七十儀

系古船之財副在抱唐人ハ先親之通現承江唐揚々

卯四當船より薩州しもの送來事

一 天保三年辰年卯口當 楊西亭 李少白 承より漂流薩州公名
十人送來依し該名を以てし下は軍去ハ宮年阮球
爾之内鬼界嶺勤者交代としく松平豊後守より大日九日
日家士肥後八進系下仕人外三於松船既西田安次改日
船練利利在薩州日西田甲平改口船既役松船附役七艘
早八并水也下經合十九人系組右為用系其外改不核
入月年三月廿一日薩見為出取不し夕繁り日宜三月十七日

夜鬼界嶋ト忌否船を揚八進交代中解舊當々士
安田奇也等○致帰國之月日八系家隸五人都合廿二人
系組右為年貢黒砂糖凡午枵尺送七百束を積日三月
廿六日口下出帆日七月十日薩州七崎之内臥地崎に沖ハ
系年々不俄に逢風起り進退自由あり以て肥前國五崎を
志し帆下を棧壘十二日にて走る風波強き船具破損ス
因て重荷を投し又乃後等を沈め海中に祈り危急を
凌ぐ所次第大洋に流し漂す日月廿日申一方遠く
小崎あり為又換船を見揚け一日力を得て日八月三日
漸く右崎に碇入り不唐國浙江省寧波府定海

縣之内舟山々々人家あり吏目新いよの舟人雖船来り
在り後(と)字後(と)日合海防官(と)役舟并引舟来り
翌九日一日出帆口夜定海縣(と)舟船(と)日九月翌
口ホ工房(と)下役(と)史一人(と)工匠一人来り(と)舟船(と)破損(と)舟を
惣後(と)日二日水(と)舟人(と)病死(と)口(と)十月廿日(と)役人
来り(と)雖船(と)砂糖(と)賞收(と)誤(と)日廿六日(と)在り後(と)之後
上陸(と)継(と)人(と)又(と)来り(と)砂糖(と)在り(と)日廿九日(と)雖船(と)請
有(と)舟(と)少(と)残(と)事(と)上陸(と)廣原(と)柵(と)門(と)之(と)中(と)長(と)舟(と)單(と)舟(と)一(と)
一口(と)止(と)宿(と)以(と)砂糖(と)右(と)門(と)外(と)之(と)庫(と)之(と)納(と)む(と)各(と)亦(と)警(と)固(と)人(と)あり
其(と)後(と)知(と)縣(と)舟(と)典(と)史(と)を(と)去(と)る(と)衣(と)帽(と)を(と)取(と)り(と)惠(と)日(と)十月十七日

乍浦(と)之(と)送(と)名(と)を(と)後(と)以(と)船(と)具(と)代(と)砂糖(と)代(と)限(と)外(と)書(と)付
一通(と)舟(と)渡(と)以(と)高(と)舟(と)封(と)下(と)る(と)舟(と)次(と)此(と)日(と)夜(と)旅(と)中(と)生
用(と)し(と)残(と)を(と)舟(と)日(と)十八日(と)以(と)舟(と)少(と)之(と)以(と)前(と)上(と)陸(と)舟(と)不(と)り(と)役(と)舟
三(と)艘(と)舟(と)多(と)り(と)日(と)日(と)出(と)帆(と)寧(と)波(と)府(と)海(と)防(と)縣(と)翌(と)翌(と)十九日
出(と)帆(と)寧(と)波(と)府(と)总(と)役(と)船(と)乘(と)習(と)口(と)廿(と)六(と)日(と)銀(と)舟(と)府(と)总(と)上(と)陸(と)
城内(と)佛(と)堂(と)送(と)舟(と)以(と)日(と)十月五日(と)役(と)人(と)交(と)代(と)し(と)て(と)舟(と)又(と)乘(と)船(と)日
九(と)日(と)夜(と)浙(と)江(と)省(と)乍(と)浦(と)总(と)船(と)以(と)定(と)海(と)縣(と)舟(と)以(と)地(と)也(と)水(と)陸
凡(と)百(と)五(と)十(と)里(と)程(と)也(と)有(と)し(と)日(と)本(と)通(と)商(と)舟(と)至(と)揚(と)州(と)局(と)裡(と)二(と)階
舟(と)至(と)揚(と)州(と)翌(と)午(と)正(と)月(と)十四日(と)水(と)主(と)舟(と)人(と)病(と)死(と)口(と)所(と)天(と)竺(と)舟(と)
葬(と)日(と)十月(と)廿(と)六(と)日(と)舟(と)荷(と)舟(と)舟(と)氣(と)之(と)養(と)舟(と)舟(と)舟(と)翌(と)七日

典史より明日日本渡海し舟は少船なり式艘引分上船
了後方を命じ口八日の夜候し軍十人を艘に乘せ出帆し
日月十七日洋中にて強風起り口廿三日午浦に到り
翌廿四日陸以前に家止宿し安田長八は舟に家来吉井
勇助吉井玄多悟城新多悟松元長八僕七人長瀬早八
兵水三三人船名十人、顔遠山船名他日月十日出帆寧
波舟は洋田山を破船し浪溺死す船七月七日右
船助命し唐人より傳へ軍口十月廿日備前國高松に
十四人漂流送來りしを以軍に入替二階下引移り
口十月廿日又、宗船口十二月八日薩分坊より傳へ漂來同日

廿三日引立當辰正月廿二日當港志岸より報外
疑者候多しよ、五月八日薩分家臣白濱八郎太
に引渡杉又左唐若をぬ其外も是親し通理系編し

對おより朝鮮漂來大隅の送來事

一、天保三壬辰年五月廿八日宗對馬守使者小林良清
大隅の四十人送來し其の松平豊隆守用お核
入琉球國大鴻の渡海し去卯年四月九日大隅國志山
波見浦より出帆日十五日大隅志船用物私お核裁々且
口所高賣し滞せし廿五人便乞部合四十

八人系組七月廿四日大浦出帆以は同日廿六日東風
次第に吹募り日廿七日又小東に慕風して危殆及び
同廿九日都嶋を見掛たす力も波乗掛して逆浪強大
しき多なる能く是れ是非なく風を御し當地方に志し
系掛し一面荒瀬より碇二匹を卸せし二房忽ち
切れて繫留がごとく公力をせし内岩上系上既九死一生の
際し力あり後高き海中に投しおぼしき幸船端舟
と一時破舟及び然れども自を固く系組人数五
力を令も海に遊揚り助命を授け人、持育せしり亦
朝鮮回全羅道海州牧我縣乃欠浦といり日西還る

之中大砲あり便乞しその内四人追て病死残り十人
對州役人若派八月六日其不致是十月十日船路を渡
送し不風順悪者多房一日廿二日再び出帆漕送多太
浦斗岩浦等より不致は役人持育せしり吟味を急且
朝鮮人しきも養息しありを惠し當年四月二十一日
朝鮮を出帆し日對州依順多をりて日廿四日府中
出帆日五月十九日日本船若州、夕繫海口廿七日當港、
若岸に依り例に通り吟味卒て該名已刻落の家士白浪
八郎太口不耳役帳依若州、若引度せしり、若返す

西一書三番船より奥州へ者送來事

一 天保八丁酉年々番沈船穀口三番沈船泉船より
南越信濃の順分夏の間伊那の五人送來該所味
有る事いものとも高きもの八十二積九端帆用運丸
却合七人系組去に申六月廿九日因山田港出船日
八月廿一日浦賀の番下し改る後日廿三日江戸迄船
を用終り 幸人上陸残る人空船より 日九月廿七日
出船日十月十二日房州九十九里港に洋るに烈風雨
逆浪に楫を有るに 進て危急を及ひ力を尽し

いしとも方有る流氷漂ふ日十月二日朝より北東風
甚しく土日に至て漸く西の方山を見出し一日力を
尽て端船より 陸の上此に唐國廣東に此方に漢文
伴て家より到り 食事を与へ宿せしむ日十四日右の者
外、山人跡添 廣東省陸水縣役所 市届改めを法
夫より 廣東の島より 運る中 亥刻に 患あり 翌酉
三月六日は不出立は西に南の古者を終る日五月十日
浙江省乍浦是船役所 引絶六月朔日日本高き舟に
護送せしむる官命あり日十日水に人病死
以地 葬り日十日残五人をの式船に引分系組出船

七月十日當津志岸より不詳の外に疑はれ候事
翌戌三月二日南紀家臣系長右衛門中村利吉より引渡
歸國せしめしむ所又互唐荷之系古船主財副舟抱人等
先例に通規承に誓錫す

戌四番五番船より薩州隅川に去送來事

一天保九戌戌年四番沈橋泉云者以竹安船より唐國
漂流薩州隅川にその日廿三名送來り候事 薩州
以候事候事候事候事候事 去の一月十月琉球國大嶋、嶋
用物積文と候事 隅川肝屬郡波見浦新倉のより

雇より日人所持し船廿三端帆子五百石積三差九日
沖船民吉次郎如水と云廿三人多組空船より同月
廿三日薩州山川港出帆日廿七日大崎島船島方役人
お座り砂糖十差七斗并尺筵二百束送り物積文
去戌三月十九日日出帆九日五十里程沖、系出候事
同四月朔日候し小舟風吹候し進み強雨逆浪と大洋に
吹去り候事終帆を揚げ地方を志候し候事 冥蒙と
候事 候事 候事 候事 候事 候事 候事 候事 候事 候事
是非を候事 檣を伐捨し候事 候事 候事 候事 候事 候事 候事 候事 候事 候事
身命危殆に候事 神明に祈禱し候事 候事 候事 候事 候事 候事 候事 候事 候事 候事

流水漂下日七日艦より舟折テ摧レ因テ糧米依係
銘ノ手廻リ具ナシ携レ帰船ヲ載セ移レ系内本船ハ
直ニ沈没凡翌八日朝九二里程山下、吹勢上陸凡此不唐國
崇明縣地方ニ海邊ナリ漢文等族ヲ来リ尋問凡凡
言詰通リ凡日本薩州人ニ言テ口夜役人新ニ者来リ
船式艘ニ載テ替日九日口所滞船翌十日出帆口夜崇明縣
总縣裏親言事ヲ持テ止高々ノ知縣ニ下役常隨五
者ニ外ニ禁ル所ニ以然リ時ニ知縣自分来リ檢察
ニ辨テ舟名并坐所ヲ書シテ示凡日十七日又知縣
ノ通リ出送凡海邊書舟名凡一日廿日以地誌而從來

之何ノ多船典史ニ下役皂隸及以水夫六七人トテ
護送二三里行テ江澤ニ总日廿三日ヲ滞船日夜出帆
江南蘇州府总上陸ノ舟人ト竹輿ト舟西禪寺ニ
到リ舟名凡七間五根凡尾ノ舟名凡親者大士ナリ日幸
止若崇明縣ニ移國人以地ニ役人ト交代凡閏四月十九日
日所出立再以舟船同廿二日夜杖柳ノ总夫ト陸路或ハ
舟仍救十里ヲ經テ五月朔日浙省嘉興府平湖縣内
乍浦ニ舟船上陸ノ舟名凡二所凡舟名凡右邊爲
中病人有リ醫者ト云テ平金且官所ノ漂民
杖叩ノ多衣物雜具ヲ每人ト惠ヒ同上月七日典史

明日日本子送了帰舟方を令以荷之り有唯乞
酒般勢承蓮藉核實梅肉凡三十粒金を以て養意以
日七日通高し唐船の艘に引分て十二家方鑄泉船に
權助武多情金攻身六郎甚左清の寛平初年即仲助
次助令助三氏方竹安船吉次郎善多郎甚左清の
子郎右馬門次郎武多郎宗玄孫市市右郎金次郎往以馬
号以之共三人に之のをも多組セ日十月十三日午浦出帆
以以之亦風嘯多者古船も日廿八日薩多片浦漂着
日十二月十二日一日引之徳泉船日廿七日竹安船日廿九日
當津古船係し誰之親以味もし外に能成係をし

因て翌亥四月廿薩多軍役大辺方多信以復而日下
不殘引渡し帰國セしゆり相又在唐為主其米三十
五俵古船之日三十俵財割唐人始令十五人日四
二十俵の理承に奉賜

天保六乙未年

十一艘入津

一 當年三月王氏船主沈耘穀十二家船主肉謁亭去辰年
以來在蜀、春秋出船の爲、船組等掛合行届出、
春出帆先急に付、ハ括列出船有、斗小、船、修、修、
と、一人前昆布百五十九、ハ与船、向、修、修、
船數、云、欠、脚、渡、来、ハ、修、修、修、修、
一 當年十月十三日館内ハ格使ハ、云、出、在、苗、諸、船、主、
命令有、ハ、去、冬、渡、来、ハ、漕、者、三、官、當、三、月、以、来、
密賣の端ハ其外、ハ、東、中、所、依、助、ハ、賣、渡、代、令

子式百五十有三官は、少渡は、以、所、助、了、之、依、も、三、官、候、了、及、
吟、味、可、考、逢、々、帰、唐、り、し、の、う、一、密、賣、の、候、ハ、兼、
嚴、禁、有、り、不、圖、法、相、背、不、届、候、を、三、官、國、禁、に、命、
右、身、依、助、御、門、目、謀、引、地、町、十、多、係、死、罪、に、可、考、と、候、
渡、り、有、人、の、もの、り、唐、館、前、お、み、て、死、罪、に、可、考、
一、當、年、唐、高、麗、所、多、歸、に、作、公、身、當、を、入、津、の、船、に、神、
崎、沖、に、繫、留、に、至、り、十、人、目、付、立、會、檢、使、出、役、該、役、并、
在、留、船、之、為、代、り、不、建、船、に、本、船、に、可、考、紙、に、執、之、の、候、
了、渡、有、り、亦、每、船、必、依、り、以、該、書、及、可、考、
右、所、右、歸、に、此、公、以、該、書、了、後、有、り、可、考、當、年、

唐、船、入、津、の、在、神、崎、外、に、船、を、留、碇、を、入、港、内、に、係、
入、り、有、候、唐、人、に、可、考、の、漢、文、出、定、の、もの、に、以、候、
但、
を、神、崎、に、本、船、に、寄、り、相、違、不、出、役、の、檢、使、先、ツ、
館、内、に、立、紙、立、る、船、之、為、代、り、不、建、舟、其、候、
同、人、に、可、考、以、候、一、不、建、舟、船、有、り、

一、在、苗、去、年、四、番、船、之、孫、漢、村、病、死、に、并、十、二、月、十、三、日、
與、福、平、に、葬、送、右、見、届、候、檢、使、に、出、立、立、會、に、
し、可、考、十、人、目、付、一、人、唐、館、に、出、役、燒、香、候、候、に、船、に、
船、之、為、代、り、漕、者、も、越、合、百、三、十、七、人、柩、に、從、ひ、本、石、
灰、竹、門、隣、に、可、考、一、横、巷、に、散、礼、の、もの、あり、依、り、

とて此後目付川舟目付共支配勘定此等役退し
相法日付唐人三百三十一人内百八十人は右捕新地には
是を館内の控使日付し唐人等も令し右唐人の内
平日不業の苦悪共け取れ妨りありしものを擧げて
二群と仕分告ありし一貫き十人にて悪きその五人は
係纏し新地より並に役方乙名日付使次、捕方裁
のもの途中路因控使附係此役取右連する為又館内
より五人退し退し捕へ来るを擧じ悪徒惣令七十人
此白洲に在るを法犯せし依て前日捕まぬ五人の
その日より大井舟入宰残百十人の者も館内に

返し是を方命令有て早束控使二人前後を右獲り唐
館に連紙サリ將又右七十人のものも真に大井家引渡
され同家士等も警固し譯司其外廿附係の惣令
七十五人大井表に入宰作付し
一 右舟港繋りし者七番唐船人數手當として大井
家士も命有て日下人收るは順境右國む然る
追し館内静謐とあり依り同十五日未だ筑前人數
ありし地役の命一引拂ふ
一 同十七日館内諸船主より志の物表に泣訴して大井
入宰の漕者も赦免の候も願ひ依り日十八日船主

お代とも命令有るに右入宰唐人の内乱路不致者も
了々しく且入館の者の内にも秘路は及びしそのもて了々しく
最前名前不中左右の付字に到此り其後を以て此別及
拍を依り入館の内此夜秘路は有りし其の由を
當人若し入宰の内にも不致者ハ名前を以て善惡を
秘し入宰命せしめ然れども館内の惡徒不致者ハ
別々の秘字を以て譯司を以て差支と他所の不入館
の内潜者又平左不致者ハ名を以て秘し依り
に不捕大付家来より引渡入宰に任付

一 月十八日右四省五省船系組の潜者も秘路ありし由系
不届至極三月廿艘其賣差正荷お遣て後房方各船
秘主たる慶命あり

一 月廿二日秘字を再書面呈を入宰の内平素秘状不致のもの
十三人名前申之其他六十二人の各頃良の者ハ付禁獄赦免
苦惱の秘字の由を以てし

一 月廿六日前條の秘字を以て大付入宰の潜者右調とて
檢使一人立會小八目付五人其外唐館乙名組既唐小
通事ハ役不附各一人唐人者二人秘省所使各一人附添
口亦に秘字秘右十三人の十三人外平常不且その由入
調へし館内より不捕一人ハ都合十八人宰内

残五十八人五連日廿八日帰崎の上程を吟味す
 以て及私好に携ふべし以て急度内國法に於て多し
 入館者類に付免許ありし

但右入宰唐人は出宰の後形に船をもちて再三
 相廻りしにも免許を乞ふに申年中一人は病
 牙時に出宰の上なる船に以て類は至全收改
 再い口下入宰翌年四月至り相又二人病を
 以て帰館居残十人日月の出宰の命を何しむ
 帰唐國禁は任付し

右人名を記す

在留午四番船
 黄散使 何徳有 日未三番船 魏加棟 林得健

未四番船
 黄日使 劉花使 李安使 江珍使

許鋪使 黄天隣 陳血使 楊金須

黄炳使 呂及使 黄旁使

未五番船
 徐買使 傳恩使 姜江使

四番五番有船漕者も以て禁令不有右の騷動かふは
 船をも不急不務届依り沈私穀場西亭に在る且
 右十八人の内魏加棟楊金須重病に依り入館船に類
 命を

- 一 船より足赤金十三貫四百七十二匁下抄渡し
- 一 二番三番船より九程金二百九十三匁下抄渡し

天保七丙申年 八艘入津

一 當年正月去冬移居を命り後書より三番船船又
 船渡先系下段の命あり下出帆の後、時候弛引等
 あり、何かの事ありと知り、且移居あり其後死入り
 御分至及の方正月五日壬辰十二家船より右船船又
 四番五番船より一、二番船者あり法犯犯せし
 依り、移居歸に、何れは連累を以て、未だ、馬
 七番五番船、未荷揚の、内、法を以て、唐田、為り、此の

中沢難あり難安至迫の方を以て右二艘若揚仕
 役も、願程右も艘船を及ひ、抄針役之外、役掛り、
 唐人にも、連中を以て、右仕役は、何れ、ああり、出帆
 して、法仕役中、何れ、銀紙の、その、不、法、の、儀
 あり、折判、方、下、御、より、一日、法、令、願、列、紙、通、却、令
 三通、願書、同日、若、上、に、亦、右、番、艘、ハ、仕、役、免、許、方、に、後
 四番五番船移居、恩免の、御、右、番、艘、法、仕、役、ハ、六、番、七、番、の
 仕役、順、當、後、の、仕、役、命、せ、り、

一 日月右末、四番五番船を沈、転、穀、揚、西、亭、の、方、人、移、帰
 赦免し、後、再、為、り、願、し、り、し、御、因、法、難、畧、し、り、

自修之願不届之故以是書附卷之命願書也
其成凡

以書付り去者去王氏十二家船之沈耘穀西亭
等之る所之其不之修之り及之願也事然前度
之沛熱論をも不之辨沛法也犯之沛外之
之荷和積戻り之仰戻り之志危角之之願也
之所之る所之若常之官廻調之之一条之之退
若也不以止事之多数願之而帰唐之之外之也
沛法書をも若之志あり之志之願之之段
沛國法之義果之り之自修之願不届之也

思之り方沛之改之る家沛之度重之志之思入之
右之積戻之仰戻り之沛法之多数願一曰之之覚悟
之之り之れ一之之沛法をも不之之之願立之之
之之 已之之上之之義果之罪難免之之之志民之
私之混之之願 沛國威之思怖之之之達之之暮
心之之之れ之之多数願之之願之之之之
沛國法之之之之之之之之之之之之之之之之
適之 沛國法之重之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之之之之之
之民之之之之之之之之之之之之之之之之之之

積戻りて 你付りて 納細し 難代免か 此のりき
次才 沛垂鑑と 成下式 百有餘年 来 沛仁風を
慕い 身命をも 不厭 遠洋 濠通 商連 綿佳
沛奮恩し 立行り 任在 相為 捨別て 沛慈憐
此為 馳家 重き 積戻り 沛宥免ら 成下り 如
謹る 才 欲 頼り 於 然 不 私 才 免 ち 多 了 了 徒 困 二 步
通り 當 季 沛 新 了 此 為 並 為 夏 双 方 為 是 其 了 徒
可 歸 向 急 及 仕 法 亦 之 衆 組 人 收 組 分 号 了 任 了
勿 諦 為 瑞 沛 新 意 了 亦 不 了 亦 極 為 意 徒 合
書 面 沛 新 了 抄 渡 若 去 振 了 任 了 右 行 届 了

廉 才 心 沛 控 了 至 亦 步 通 了 洞 沛 既 當 了 成 下
以 了 幸 多 難 了 任 合 了 亦 了 亦 限 式 步 通 了 沛 視
中 了 了 後 不 容 易 事 了 亦 歸 唐 了 上 以 何 抄 了 外 口 了
法 了 既 難 中 了 沛 新 了 亦 沛 事 了 亦 沛 事 了 亦 沛 事 了
此 以 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了
懲 了 沛 愁 沛 了 亦 了 沛 憐 慈 了 亦 願 了
既 文 工 社 了 後 也 當 時 了 至 了 了 實 了 培 悔 了 亦 願
亦 亦 一 辨 了 是 合 日 坊 了 堅 而 了 亦 亦 亦 誤 入 了 亦 亦 見 分
了 通 了 亦 何 年 被 是 了 亦 亦 亦 亦 抄 別 了 沛 慈 悲 了
以 亦 限 積 戻 了 沛 宥 免 了 成 下 何 亦 商 賣 了 既

此御付らり伏るも願ひ然るも帰唐し
咎を語り候へ覺悟し前より候
候し官廻り美市納り候至官亦向
直し存るも **奉業** 續仕 御厚恩之程
忘却不仕若し **奉業** 續仕 御厚恩之程
當夏に至り方一不辨候も有し
此是に候不ア語るは存るも
作り定まり再ひ此願書
元也下右条 多岐公大人
御奉所は此御上御百年未通高
接續仕候高悟

汚隣 多しと願通 御恩免
此是に候不ア語るは存るも
接續仕候高悟

天保七年 正月

在館諸船主連印

右へ通歎願書の上の 下日二月八日命令方へ
漕者凡不法候ふは未不届至極し
後歸り候るの赦免の候再立申
細二歩通残候しし 御唐の上
の之若し是残候し 御唐の上
お扱程の官廻り残候し 御唐の上
を以て一船に細三歩通り 御唐の上

市國法於おきい高賣て去免玉幻、おありハ速に買ね船
積之全出帆の方々任公の亦衣服の所積書先出依し同九日
再び命方し以迄市國法留くおき却て命令違背不仕方
改て今般積書先出依し格別の書物多し以て類し通商賣
免許せしむ

一 當春王氏十二家船より、漕者お渡るおれを浪り
出買上り仕法書を以類し且是也市免言四十貫目
の外百五十貫目坊船令一船百五十貫目、常夏船より列
段賣り買り代りおお浪れを以て以渡り下夜お類し
格別の積多し以て類し減おとなり是船五十九貫目

坊船令一船百貫目、賣上り四月に至り免し

一 四月十六日王氏十二家船より、去免許し付て和以格の
石碎し以て命令の所急及記載し

去未四番五番船系組工社及先達館内、ありて
不法、ありし以て船系不届し、右式般高賣、及止
せ、お積船中、お和、不、難、以、以、以、中、立、共、管、免
非を悔し、以、後、急、及、市、法、を、お、以、中、立、外、亦、船、を
とも、あり、し、も、一、下、通、り、以、難、法、を、由、し、以、
歎、難、多、難、を、以、成、品、も、お、買、り、格、別、し、宥、忍
ヲ、以、以、乃、し、以、お、類、し、通、一、船、し、三、番、外、死、し、残、泊

中付赦免、おとし高賣乃おとし依し得唐之と
其方乃中三通高之氣 在唐船之其とも以高し
如未中守工社在而錦乃河片有極仕法書其船
よりお渡込即國法有作法不礼前より中渡の
控はてまの然る高右に 残洞之高て高渡の第一
以高工社有而錦乃不極 是也口紙し事
以高前書し 残洞の買減之より付高其高て高
公外船之におあとも 如未工社とも不法し高
ありて、用渡あり買減より其高てより
一言し渡りたる高

右に通し渡り条得其意 船之船又其高中渡
法書有しと高

申四月

右に通會下調役年高年寄の 以作付其法程又船
出帆之高 諸船之 以来高錦乃之條書 在所以 命令
有之亦 内法書高

一 去冬入津未四番五番六番七番船進く高賣を早
當年四月廿五日出帆歸唐入其法其船入津所高之
新地仕役場規程之知ヶ條書高し命あり 然る亦
右書出帆進引高 船之歸唐不渡其船仕出方

届りたる十二家方在唐之壽昌船を艘六月十日
常港、入津より別申二番船にお立例に水子叔海介
丸船役の作付

一 右入津申二番船に劉景筠より在唐古荷に
願書六月十三日同十六日先上右願書に地和解
丸、記此

以書付身願の者十二家銅為揚嗣亭者
所及の作付に及も願事然も私代

王氏銅名一目

貴國に所渡歴年為賣亦至永遠自家

御鴻恩雖有在及も前修に去出帆
歸唐仕荷和仕入方亦急是近小暑に以仕出
所渡連て石續来り亦是近小暑に以唐仕後ハ
去冬全く出帆延引仕り候も亦急右船は若移亦
去冬双方向り五艘仕出り所渡り亦其動り候
も亦も消息を以り月十二家方壽昌船を艘
去殘存候月不修止り先急右船は若移亦
仕官下り申立劉景筠候渡来乃仕候既
出帆所渡り亦急漸に家泰船歸迄候方右
延引に攻牙亦候り亦去冬工社渡来り上

清法右犯一以罪難免不

御奉行亦檢列之清意悲之八工共十八人亦已大村

表入牢之 作舟且一船三番行宛之銅形船

表成路ハ出牢之上均唐之 作舟右舟四月廿五日

京航仕之況之幸候其清也ハ月洋中其續

西南之風強ク何事難系右少暑之清漸之初船

歸唐仕之況未船取未振不中歸唐之船之

と云々右一社不該之及好末ハ能知也形知仕之

貴國ハ御意悲之檢列 幸之此知事不之

及少難難之在也 地之双方善之宜能其極也

此清書其紙之上該事亦能其互之清宥免之

清沙地之毛之有之船取之危険清渡交易

仕之在人在 清隣系之如少之能重之能之

然之云々 地能之通有申之管之能之管之

其云々 識之云々 其云々 其云々 其云々 其云々

漸之壽昌航仕之 其云々 其云々 其云々 其云々

其云々 其云々 其云々 其云々 其云々 其云々

其云々 其云々 其云々 其云々 其云々 其云々

其云々 其云々 其云々 其云々 其云々 其云々

其云々 其云々 其云々 其云々 其云々 其云々

右市買当方に候に 是れを以融通申成り候に
御付より申上り候に 是れ目録に任合申候に 右船に
涉願申上り候に 年寄通事亦申上り候に
涉奉所候に 御上私に船に歸唐延引仕候に
仕候に 方寄合兼船師唐延引仕候に 御法
お犯候に 取不申上り候に 御鑑系に 御前
時候押移候に 御昌船一艘仕候に 何に
官下候に 是右涉謄書及上り候に 合申候に 取申
是船に 子渡不申上り候に
貴國通高涉隣候に 是れに 船に 思入候に

右に 實情申上り候に 是れ常冬船に 双方一因渡来
候に 是れ方違涉謄證文及上り候に 依り 右不得
止事 是れ情 御鑑系に 取申上り候に 重候に 願に
此候不顧忌申候に

天保七年 五月

十二家荷主楊嗣亭

以書付申上り候に 王氏洞者 王守安 是れ此に
候に 御上り候に 是れ願涉事 然れ私に 是れ三般
十二家 方寄二般洞洞達候に
貴國に 子渡當其に 是れ御國 是れ待候に 是れ唐

不仕然亦私其王氏方居残り船等前廣子當
孰由東海く五月下旬に至り双方四艘追て总唐
仕全勝船の儀今以向唐不仕り候に於
貴國追て相成に 御出の儀申承知候渡来に
船主方も且て付承仕り去冬船入津の上
度方々 御法令に 御渡り未上私に十合不法
相働候に於
貴國多人取ら者其汚捕に其加入牢に 御舟
其船の積房の 御舟交易不仕り候
汚免り不渡来に船を 混り款頭中上高賣

は 御舟汚捕に其加入不法に 工私に十八人引
残り外に者凡 御赦免に候下日新室泰
古船網三箇外宛汚捕に追追高汚渡り下以振
於私にも重辱雖有子感佩に私に其海渡り双方
百有餘年々通商に不一方候に其亦船に 工私に
自儘逐日致切長を来御渡り自分存候本方にも
格別多分、方々 櫻館外に子出崎人々 交易
以、以右自物に双方に礼に 其成於私にも心外
千萬年々 御官下中 立葵 耳に上仕法に立
節に 其申渡に 其成於又出帆に 其も 船役を

不切之儀、奉為埃、最早程久、為沙戒の由
御身並り、念、必定前非、悔、改、了、奉、為、依、
以書面、沙、類、中、此段、年、春、通事、飛、進、中、入、以、案、
御、檢、使、大、人、

御奉所、に、云、作、上、有、者、丸、を、洋、島、渡、以、候、
御、憐、み、と、松、別、に、所、恩、施、を、以、壽、昌、入、津、と、
館、内、に、取、見、進、し、り、り、在、館、に、取、見、有、錦、川、
是、尚、を、御、後、後、又、抄、渡、り、之、歸、唐、に、御、身、り、
私、に、願、之、差、取、札、の、下、に、御、身、可、以、以、書、件、
を、願、也、

天保七年

願主王氏綱高王宇安

一 當夏申二番船入津信牌命の長漕者才許より
秋時斗五ツ丸荷役の長芥子珊瑚樹二十斤除改出
此有上りなる右、舟、亦、難、浪、の、次、才、才、互、相、願、ふ、
以、以、以、免、許、不、切、に、依、て、右、二、亦、も、唐、館、前、沙、戶、
場、に、有、り、を、燒、捨、に、命、す、

一 申一岩南京鈕拵亭船一艘當四月廿五日類船一艘
一日出帆り、以、示、三、順、風、洋、中、に、漂、ひ、難、風、遙、に、船、具、兼、
本、船、亦、損、一、種、一、危、險、を、清、く、の、内、時、候、迄、也、連、也、

歸唐成^りき^きより六月十五日^日安^ん居^く願^い依^り
港^に引^き入^り其^の紙^を滞^り船^を免^じ許^す方^に多^く但^し不^し錢^を館^に内^に
上^に陸^に荷^をお^し入^り本^の船^を修^り復^す加^へて八月十七日^日出^る船^に引^き下^り
日^に廿^二日^に又^も多^く居^る材^を木^を食^ひお^し預^め沖^に積^りし^て再^び九月三日^日
出^る船^に歸^る唐^へ

一 在^る船^に周^る謁^し亭^に當^り秋^に歸^る唐^へ有^る儀^をお^し多^く依^りお^し形^に子^に
の^に不^し當^り春^に以^て來^り漕^を者^を荷^をお^し曉^し所^を多^く之^を方^に其^の外^に骨^をお^し有^る扱^を
の^に紙^を願^を身^を方^に控^り別^にし^て沢^をを^り儀^をお^し十^貫目^に昆^布十^貫
貫^目分^に為^り多^く當^り賜^を

一 當^り冬^に入^る津^にの^に船^により王氏^に十二家^を荷^を多^く九^連名^の所^に法^を書^す

持^り渡^す呈^上右^の志^のの^にお^し和^を解^られ^て記^し凡^に

具^に遵^じ依^り保^を結^ぶ^王公^に西^の局^に總^を商^す^王王^字安^揚結^得為^る目^に
未^し年^に冬^に^日新^室兩^の船^を過^り寄^り目^に侶^等内^に有^る不^し安^本
分^に不^し守^り法^を度^を者^を仰^め蒙^る

貴^國恩^を慈^を不^し加^へ深^く罪^を僅^に將^て不^し法^を之^の十八^人暫^に為^る
宰^を繫^す並^に各^に扣^り洋^に銅^を叁^百箱^を^高等^に感^を敷^く之^を
下^に不^し勝^る惶^を悚^を之^の至^る現^に在^る各^の船^に所^に用^る目^に侶^等俱^に慎^む
選^り循^じ良^を安^を分^に之^の人^に再^び不^し敢^て私^に帶^り貨^物滋^を生^ず
事^に端^を^高等^に情^を願^を具^に保^を乞^ふ將^て所^に禁^む十八^人釋^す
放^す如^し或^も再^び有^る不^し遵^じ法^を度^を復^た踏^り前^に轍^を者^を一^に聽^く

貴國囚禁懲處不敢違拗設或竟至罪在不赦者乞將犯事之人囚禁於出帆時捆交本船船主帶回唐山高已稟明本國大憲於解到時立即提到本犯親屬聲明罪由眼同正法俾衆咸知以彰國憲而做凶頑至銅筋一項係高等正太公事不能短缺今既出具遵結乞將所扣銅解全數給還俾得源々未販此後如有罪犯至罰銅者亦聽

貴國查點前案分別輕重如留並無異說再各

船過崎目侶人等亦悉遵依論定人數不敢多帶所具遵結是實

王局三船遵限人數

公局三船遵限人數

日新 乙百零乙人

得恭 乙百零貳人

全勝 乙百零乙人

實恭 乙百零三人

源興 乙百零乙人

壽昌 捌拾柒人

天保七年十一月

日具遵依保結 王局總商王字安
公局總商揚嗣亭

清務謹文在以下者左王氏十三家總商王字安
揚嗣亭為保商去去年冬船日新實恭號二艘

為清之上工此其内自修市働汚法不亦者凡
其國之 師其恩之 蒙り控別り知し汚法はも不
為及不法者働十八人の其の内中り入牢は
作付並兼細三百某汚知ら並は既終私をも感激仕
事思の 付合の 以て 當否 新く 渡東仕工此とも
何世も其操し人招實辨成者をも 決て 自分其知未
指後も既く 万復成不仕私其急度汚法合證文も
中上其身何年汚戒し為並十八人て者其牢は
作付其を親し若再の 汚法及く 肯不法者働
其の内中り凡

其國入牢之上汚法は 作付其決る遠宵不仕第一
重罪之者有るなり 右本人入牢は 作付並出帆
之汚法戒し 終本取其汚法は下なり 唐國は
連歸早求私其本國役而 願之 召別本人の不及
親族其連引渡不法は 既其細し之仕並其成り
何れも國法に容惡法を以 傲り成一日其知之 且
細し後、私其官能大切し 其の御も 不足其之
以事 不亦成 傳り 右身は 其汚法合證文
其上り之 何年汚控は 其並其 濁不殘汚法は 其
以り 永を渡東て 仕以 垢若罪を 犯し 罰減細は

作什為終

夫國罪之輕重以銀之上銅之輕重以決之其後
中上乃為相末磅船之工部乃定人取通決而多
人取乘後不中仍法法論文在凡中上亦在遠在
此亦在

王氏三艘涉法人數定

十二家同

日新 百五人

得泰 百八人

全猪 百五人

金泰 百三人

源興 百五人

壽昌 八十七人

天保七年十月所傳 元法合 禮文 為 高者

王氏從高王字安
十二家同楊嗣亨

一 船より 芝赤令十四貫七百八十五匁五分抄取

一 二番より 八番船より 合七艘より 九程令七貫四百八十
九匁五分抄取

一 二番船より 大籠紋浪喜貫四百九十匁五分抄取

一 七番船より 紋浪四百二十匁五分抄取

天保八年 七艘入津

一 漕者凡列 順夢却合百貫目高在秋多語 以作付

一 右の内砂糖類外より右歩割を以て賞与
 免し其並の外より唐國仕方より又新儀の儀
 漕者凡増子當りし其名多取荒お三十貫目別匠打
 渡依し十割増を以て浪札高儀の儀高を并王氏十二家
 船より類おし右高儀を以て用ひらば加ふべき事
 年来船も大骨打且い昔渡来の漕者とも議し
 一 津國法おき津州なるを以て四十貫目分の砂糖向儀
 歩割、不拍多例並修らんと賞与儀又別匠二十貫目
 拍渡の荒お高儀類も又之を別儀のよき事本高儀
 拍一月高賞免許當年二月船より命し

一 當年二月廿七日去冬拍渡呈上より下の高儀を以て
 伊達御文の内是迄命令の砂糖高儀を揚り不拍高の文を
 書載有りと付右伊達御文は是迄にお高儀を命令し
 此書付高の拍和解とも意した記す

王氏
 十二家
 船主共記

唐高は近年不拍高 其高未年改而高儀
 中渡り亦同年冬船日新高泰蹄工此其内
 津高意不拍高 自任歩高不拍高 其高十八人

しをの九入宰 并残 網中 舟以 成 唐 國、 抄りて
荷を 凡 必 知りて 一 恐 入りて 依りて 渡 事
漕 者 一 何 也 人 物 實 詳 故 之 也 相 探りて
自 分 存 如 寫 抄 後 以 故 決て 不 可 後 方 為 之 也
より 法 合 證 文 抄 後 是 出 示 右 法 證 文 之 内 一 第 一
重 罪 之 也 の 者 一 人 入 宰 中 付 違 之 帆
之 名 戒 之 任 本 証 再 之 也 抄 後 之 唐 國 上 連 場
早 東 本 國 役 所 上 頭 之 夜 証 中 之 以 故 右 中 立
之 証 之 右 用 心 抄りて 一 詳 一 以 年 右 錦 中 反 以 証
由 國 法 犯り 以 之 の 証 書 不 拍 日 本 之 刑 罰

二 中 付 証 中 渡 以 故 之 也 一 船 之 凡 必 知りて
子 之 之 不 當 之 文 証 本 証 以 法 證 文 之 以 故 之
津 制 度 之 控りて 以 之 抄 當 不 抄り 事 之 依り 法 證 文
若 近 以 系 歸 唐 之 上 船 之 也 之 中 軍 之 証 書
不 抄 渡 以 故 之 也 之 抄 之 以 兼り 中 海 之 通 日 本 之
刑 罰 之 也 之 抄 之 也
右 之 通 之 後 以 系 歸 其 之 船 之 船 之 凡 必 知りて 中 海 之
證 文 之 凡 必 知りて 之 抄 之 也

酉
二月

通曰唐商等風習頽敗前于未年特行發
諭約束誰料于今年冬帑日新寶泰踴而
艘目侶人等內有不遵奉

旨情由肆行不法之十八名即着監禁併扣銅餉
一事在唐局商等既已洞悉不堪惶畏為此此
番所帶目侶人等俱各揀選循良之人決不
敢使伊辨帶自貨等語局商等投遞保結
遵單但其遵單內若有罪在不赦者乞將本
犯囚禁于出帆時捆交本船船主則當帶回
唐山稟明本國大憲正法等語實難從事既

在前年發諭約束之時有犯
國法者不論遵單之有無按照
本邦法律懲治之諭各船主等既已知情所具遵
單字樣不合似此怠玩

法令甚爲不該故將保結遵單發還俟回唐日
轉達局商可也縱無遵單齋來亦在

本地須照前諭按律施行特

示

以上

曉諭情由俱已知悉局商以及商等一時竟

不留神可具不合遵單不勝惶恐之至俟

四唐日須將

曉諭情由詳達局商知悉即此具遵單上

覆

二月廿三日 申三番船主沈 耘穀

全四番船主周 藹亭

全五番船主 高 掬雲

全六番船主沈 綺泉

全七番船主汪 竹安

全八番船主 沈 耘穀

唐高元近來不石錦。付去。去年改而石錦。船中後
以不同年。冬。和日。新。宮。泰。号。二。艘。工。所。其。內。所。務。意
不。可。自。信。其。働。不。法。有。以。十八。人。其。其。の。も
入。宰。残。洞。等。中。付。以。汝。旋。唐。國。為。是。凡。汝。如。知
思。入。由。依。以。及。汝。事。以。工。其。凡。何。運。也。人。物。家。群
汝。者。下。少。揚。也。自。分。若。好。等。汝。海。り。汝。て。決。る。不。可。為。若
若。之。凡。分。陸。合。汝。又。汝。海。是。也。亦。有。陸。汝。又。之。内。之
第一。重。罪。之。者。有。之。凡。有。本人。の。宰。中。付。並。出。帆。之。旨
戒。之。任。在。丹。好。也。有。海。り。唐。國。に。連。帰。早。速。而。回

役所上願三度紙中より右に之を執りて用ひ
しに一辨一紙一年而歸中流りて

即國法犯すは之の法書に不指日本に刑罪に中流に

中流りて多し船に多し其法取知れ在りて不當に

文照中流に法書又其法取に即制るに船に

其書不指之事に依りて法書又其法取に

其書不指之事に依りて法書不指法取に其法取に

其書不指之事に依りて法書不指法取に其法取に

右所書に依りて其法取に其法取に其法取に

其法取に其法取に其法取に其法取に其法取に

其法取に其法取に其法取に其法取に其法取に

二月 詔船之連印

一 三月廿五日去年 其法取に其法取に其法取に

其法取に其法取に其法取に其法取に其法取に

其法取に其法取に其法取に其法取に其法取に

其法取に其法取に其法取に其法取に其法取に

其法取に其法取に其法取に其法取に其法取に

一 四月七日前件に其法取に其法取に其法取に

國法扣銅禁犯理所宜然春季船回乃蒙
賜矜憐

恩施格外六百箱洋銅全給既官項之無虧十
八人禁網皆開俾罪人之獲返公私咸感遐
邇沾沾

仁惟此等目侶狡獪性成不法已極 敬 國豈能

寬宥現已稟明 上憲 解赴 京都在

刑部自有憲章議罪須分輕重一依定例

俾衆咸知用以彰

貴國之仁慈亦以伸我平朝之法律惟是沿海

愚民不諳事理雖屢加訓迪毋蹈愆尤而誨

者諄諄聽者藐藐斯真冥頑不靈哉此後

惟有勤加嚴飭永戒將來共凜畏

威懾

德之心益切臨淵履水之誠謹啓以

聞

道光十七年五月 日

大清國浙江嘉興府平湖縣知縣胡 謹白

日本國長崎法基大人圖下十九

海天涯、隔り、未得、不、可、竹、崎、敵、を、有、り、故、に、此、地

其、國、と、互、に、通、商、と、事、百、餘、年、來、在、り、故、に、其、地

も、及、び、往、來、不、絶、也、其、地、に、王、氏、十、二、家、双、方、と、も、永、久、に

通、商、す、る、事、然、る、に、去、年、工、部、元、僚、に、利、慾、を、以、て、不、法

之、振、舞、を、行、は、せ、り、

而、因、法、を、犯、し、身、刑、に、加、せ、り、而、其、地、に、不、法、之、政、を、行

ひ、唐、之、貨、物、を、於、此、地、に、思、施、し、上、刑、を、受、け、り、而、海、外、

官、刑、不、足、を、以、て、十、八、人、を、裁、せ、り、而、免、れ、り、而、人、も、海、外

に、為、り、私、利、を、以、て、威、嚇、を、行、は、せ、り、而、以、て、其、地、に、

此、地、に、不、法、を、行、は、せ、り、而、其、地、に、争、り、而、其、地、に、上、刑、に、加、せ

り、而、其、地、に、送、刑、を、受、け、り、而、其、地、に、送、刑、を、受、け、り、而、其、地

に、送、刑、を、受、け、り、而、其、地、に、送、刑、を、受、け、り、而、其、地、に、送、刑、を、受

け、り、而、其、地、に、送、刑、を、受、け、り、而、其、地、に、送、刑、を、受、け、り、而、其

地、に、送、刑、を、受、け、り、而、其、地、に、送、刑、を、受、け、り、而、其、地、に、送、刑

を、受、け、り、而、其、地、に、送、刑、を、受、け、り、而、其、地、に、送、刑、を、受、け

り、而、其、地、に、送、刑、を、受、け、り、而、其、地、に、送、刑、を、受、け、り、而、其

地、に、送、刑、を、受、け、り、

而、其、地、に、送、刑、を、受、け、り、而、其、地、に、送、刑、を、受、け、り、而、其

地、に、送、刑、を、受、け、り、

通志十七年五月

敬啓者上年冬幫賣帶保結前來我等
原條商賈未諸公案所陳情形竟有不
週之處乃蒙

認爲肆無忌憚將原呈

擲還殊覺惶悚之至前在未年以來屢蒙
嚴諭條款俱已領悉敢不凜遵即此具單上
稟

竊以古者有師徒之文於厥後乃有
商賈之業而其事在不務於下
不務於上而務於中
其本在誠而不在利
其法在簡而不在繁
其心在平而不在偏
其行在直而不在曲
其言在實而不在虛
其德在厚而不在薄
其業在勤而不在惰
其財在積而不在散
其氣在清而不在濁
其神在靜而不在躁
其志在遠而不在近
其行在剛而不在柔
其心在寬而不在窄
其言在簡而不在繁
其行在直而不在曲
其言在實而不在虛
其德在厚而不在薄
其業在勤而不在惰
其財在積而不在散
其氣在清而不在濁
其神在靜而不在躁
其志在遠而不在近
其行在剛而不在柔
其心在寬而不在窄

王兩局銅商爲具遵結事竊 商等赴

貴國採辦洋銅幾及百年久沐

仁慈從無事衅綠上年目侶入等不安

本分私帶小貨過崎大屬非是上于
國法致將犯罪之十八人監禁大村各扣留
洋銅三萬筋以示薄罰商等不勝惶愧之
至今春乃蒙
施汰外之仁將扣銅全數給還俾得繳清官
項已屬感
恩不淺復又蒙將犯汰之十八人不加譴責概
令釋曰尤為柔遠深恩古所未有至該犯
等至乍浦後即全行稟交本縣申詳上
憲解部照例治罪所有禁華人等永

遠不敢再帶過崎并嚴戒衆目侶此後總
當遵守

國法不敢違犯合具遵結是實

天保八年六月

日具遵結
王局銅高 王宇安 揚嗣亭

王氏十二家銅高所積文
貴國
市仁德沐
奉多

即國法在犯... 十八人... 三... 此... 網... 即... 十八人... 此... 網... 即... 十八人... 此... 網...

天保八年六月

親王 皇太子 皇孫 皇弟 皇妹 皇孫 皇弟 皇妹

一 新... 一 一... 一 一... 一 一... 一 一... 一 一... 一 一... 一 一... 一 一... 一 一...

一 尚書少帆三漕者廿二日火之是為九月廿一送残之京
 未館内口有之船在為船之入左及自所以右岸
 以船名お多洲河之多船員中水依お昆布一貫目
 王氏十二家在為船之汪竹安沈橋泉下同六月為之
 一 尚書少帆九程令三百九十四目お船之
 一 船之入左是令十八貫八百三十九目お船之
 一 尚書少帆方お船之入左は 船之遠方は事
 船之入左は 船之遠方は事
 一 尚書少帆方お船之入左は 船之遠方は事
 船之入左は 船之遠方は事
 一 尚書少帆方お船之入左は 船之遠方は事
 船之入左は 船之遠方は事

入港毎之信脚 尚書少帆 廿二家 船之在左
 命令方

一 尚書少帆入津 廿二日 船之在左
 入津之該船之命あるの亦右ハ尚書少帆之船
 唐固延号之連雨之 尚書少帆 且該船之在左
 此引混航之 廿二日 尚書少帆 且該船之在左
 渡絶休一各二番 船之顧子笑河該書方之

天保十二 亥年 五艘入津

一 當年正月戌三番船漕者村校福在為日之當船漕者
 魏得榜旧臘廿台橋島所船之即之少之の三省船

高村密買りしは、
二月右有人、
日月廿七日右一件、
新進外住類、
國禁、

去申八月中、
中三省、
了、
依、
之、

年、
歸唐、
在、
去、
い、
不、
依、
入、
了、

瀬戸也きり ぬひ繁く所為子正月七日夜俄烈風
送浪となり 忽ち碇振切再い本碇を岸より引
難警も亦斗し 舟も楫を離れ 突立一船者狼狽大
方多し 翌日曉幸い楫沈中 穿つて以て 以て
菩薩櫃二階より 即時水取となり 大橋お水須
史の間 船の端に 碎破あり 其水犯若國被押 船は碇封
る内 字小向より 浪迫り 凡二三町隔り 田子碇と
りし 船より 依り 野母川 舟も亦 舟逆を 且此代左
より 舟を引り 早逆右 難船場 舟も亦 舟逆を 且此代左
舟も亦 舟を引り 早逆右 難船場 舟も亦 舟逆を 且此代左

作右邊の少張 其外 隠察方 以役 所字 右難船 舟も亦
〜 野母川 舟も亦 舟逆を 且此代左
舟も亦 舟を引り 早逆右 難船場 舟も亦 舟逆を 且此代左
舟も亦 舟を引り 早逆右 難船場 舟も亦 舟逆を 且此代左
舟も亦 舟を引り 早逆右 難船場 舟も亦 舟逆を 且此代左
舟も亦 舟を引り 早逆右 難船場 舟も亦 舟逆を 且此代左
舟も亦 舟を引り 早逆右 難船場 舟も亦 舟逆を 且此代左
舟も亦 舟を引り 早逆右 難船場 舟も亦 舟逆を 且此代左
舟も亦 舟を引り 早逆右 難船場 舟も亦 舟逆を 且此代左
舟も亦 舟を引り 早逆右 難船場 舟も亦 舟逆を 且此代左
舟も亦 舟を引り 早逆右 難船場 舟も亦 舟逆を 且此代左

便乞歸唐人

附右所船場不諸入費限之極三貫六百口極六金條也何官

六貫六百口三百三極金條六金條後後り以右極年限

六貫六百口三百三極金條六金條後後り以右極年限

六貫六百口三百三極金條六金條後後り以右極年限

六貫六百口三百三極金條六金條後後り以右極年限

一 右所與船及雜船因危之極三貫六百口極六金條也何官

六貫六百口三百三極金條六金條後後り以右極年限

六貫六百口三百三極金條六金條後後り以右極年限

六貫六百口三百三極金條六金條後後り以右極年限



恩賜且基本擇合新船買入乃乃子當係船百五拾貫目
右船渡言 作付五季之割合一季三十貫目 本方係船を
以て下船迄納右之舟のハ為船能且今亦注文之各船を辨
高功了本船方四月汪氏荷之命今之舟子以船係掛
高功了本船方四月汪氏荷之命今之舟子以船係掛
右之船命令今之舟子以船係掛

